

【フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	熊本県
-------	-----

I. 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	八代市立八千把小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	4	5	4	5	4	1	28	37
児童数	142	150	171	158	161	144	1	934	

II. 研究の概要

1. 研究主題

きめ細かな指導による学力の向上を目指して  
 —学習意欲の向上と思考を深める授業づくりを通して—

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

2～6年算数 平成13年度より少人数担当教員の加配をいただき、  
 学力向上の取り組みを行ってきたため

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年 度	<p>○テーマ 基礎学力の向上を目指したきめ細かな指導法の工夫 —算数科の授業を中心に—</p> <p>○仮説 仮説1</p> <p>○ 児童の基礎学力を向上させるには、学習指導において以下の取り組みを相互に関連させながら 実践していけば基礎学力は向上するであろう。</p> <p>(1) 算数の学習では、計算技能を柱としながら、自己の課題解決ができる場を設定する。</p> <p>(2) T Tおよび少人数指導という学習形態における指導支援のあり方を工夫する。</p> <p>(3) 練習学習を子どもが意欲や自分のめあてをもって取り組めるようにし、基礎的基本的技能の習得を図る。</p>
--------------------	--

## 仮説2

- 自分の生活および学習における具体的な目標を見つけてそれを実践することで、学習意欲が向上するであろう。
- 生き方に関する人の話を聞いたり本を読んだりする中で、将来の夢を抱き、自分を高めようと意識することで学習意欲が高まるであろう。

## 仮説3

- 学習環境を整備すると、学習成果の向上しやすい状況をつくり出すことができるのではないか。また、そうすることにより、子どもたちの主体的な学習が促され、学力の向上につながるであろう。

## ○研究内容・方法

### <学習指導部会の取り組み>

- ① 第1回学力向上のための要因実態調査（本校児童の実態にのみ立脚して「学力要因」をとらえる。）
- ② 第1回学力向上の要因実態調査をうけての取り組み
  - ・朝自習時の視写→国語教材文の視写を朝自習の時にする。
  - ・授業中のノート作業→授業中にノートに自分の考えを書かせる。
  - ・連絡帳を書く際の視写と短作文→その日の連絡を視写する。ミニテーマ作文を書く。
  - ・各教科の表現方法としての作文指導→生活科、総合的な学習の表現方法として作文を取り入れる。
  - ・ミニ作文→自分にとってうれしかった出来事があったときに書くミニ作文
- ③ 学力向上への取り組み

#### ア 基礎学力の向上（基礎的基本的な内容の定着）

- ・朝自習の充実…学校全体で曜日ごとのメニューをそろえる。  
<月…学級裁量、火木…算数、水…読書、金…国語（1・2学期…漢字、3学期視写）>
- ・基礎基本の時間…授業はじめの2～3分に基礎基本の時間をとる。  
（フラッシュカード、100マス計算、計算トレーニング）  
計算スキルで授業を終われるようにする。

#### イ TT・少人数指導のカリキュラムと指導形態

- ・TT…算数の授業について、第4学年の5学級すべてについて、年間を通じ、150時間の授業を、学級担任とTT担当2人が協力して授業を行う。
- ・少人数…第2・3・5・6学年の算数の授業について3名の教員を加配する。少人数のグループ編成は各学年1・2組（3・4組）を3つのグループ、5組がある場合は5組だけを2つのグループに分ける。教師一人あたりの児童数を少なくして、きめ細かな指導がはかれるようにする。  
習熟度別編成については、児童の学習の習熟度に応じた少人数編成を行う。  
単元の指導後、診断的評価によって各自の残された学習を明らかにする。

診断テストの結果により、グループ編成を行い、それぞれの課題になった学習内容に取り組みさせる。

#### <生き方教育部会の取り組み>

##### ① 学習意欲の喚起のために・自分の生き方を考える

###### ア 人の生き方に学ぶ

- ・生き方ミニ講演会…全校集会で本校職員がなぜ学習するのか、どのように学んだらよいのかなどについての生き方に関する講演を月に一度聞く。
- ・生き方図書コーナーの設置…「なるには文庫」の活用、伝記コーナー、伝記ビデオライブラリー
- ・授業実践…学級活動「夢や希望を持って生きる態度を育てる」の時間を使って生き方ノートの記録の仕方の指導をする。自己を振り返り、自分の目標が達成できたか確認する。

###### イ 夢の実現のために努力する

- ・総合的な学習「ゆめをそだてよう」の計画
  - 1・2年→「わたしのまわりのすてきなひと」
  - 3・4年→「わたしの周りの働く人」
  - 5年→「どんな仕事があるのかな」
  - 6年→「自分の夢を追いかけよう」  
(就きたい職業について調べる。)

###### ウ 具体的なめあてを持つ

- ・「ホップ・ステップ・ジャンプ」…めあてカードを使って、何をいつどこでどのくらい（どんなふうに）というように具体的な学習や生活のめあてをもてるようにする。

###### エ その他

- ・生き方教育新聞「ゆめ」の発行…生き方教育の内容について家庭に知らせる新聞を作成した。
- ・生き方掲示板の作成…「生き方教育」で取り組んでいる内容について、児童や職員、来校された地域の方に知らせる。

#### <学習環境部会の取り組み>

##### ① 良好な学習環境づくりの取り組み

- ア 学習適応性検査の実施…学習適応性（学力不振の原因や、学習効果を上げていく条件は何か）を持っているか調べるテストを行った。夏休みの家庭訪問で各家庭に指導を行った。
- イ 全校集会での指導方針の一本化…生活の落ち着き、聴く力の向上、事故の減少
- ウ 職員作業での環境改善…長期休業中に廊下に中央ライン、倉庫等の整理、運動場にタイヤ遊具の設置、バスケットコートの新設、花壇の移転による遊び場の確保などを通し、新鮮で充実した環境の提供。

エ 学習環境の整備…「学習の約束」「発表のしかた」を各教室に掲示  
「生活点検表」の作成と実施

平成  
15  
年  
度

○テーマ

きめ細かな指導による学力の向上を目指して

ー学習意欲の向上と思考を深める授業づくりを通してー

※ 本校では、学習指導をしていて「知識・理解」や「技能・表現」の力を高めることはできても、「思考・判断」の力は高めにくいととらえている。基礎基本の徹底とともに、確かな学力の要となる思考力の向上が必要と考え、14年度のテーマを改める事にした。

○研究の見通し

学力を高めるためには、家庭を含めた、学習環境の改善を図る。子どもの学習意欲を喚起させる手だてを行う。授業においては基礎的基本的事項を明確化した展開を工夫し、児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を行うと、学力を保障することができるであろう。

○仮説

- ① 思考を深める授業の工夫をすれば、学力は向上するであろう。
- ② 児童の意欲づけを工夫すれば、学力は向上するであろう。

○研究内容・方法

- ①思考を深める授業づくり
- ②基礎学力の向上（基礎的基本的内容の定着）
- ③少人数指導のカリキュラムと指導体制の研究
- ④T T・少人数を中心とした算数科授業の研究
- ⑤教科担任制の研究
- ⑥小学校における進路指導
- ⑦学習環境の整備

平成  
16  
年  
度

○テーマ

きめ細かな指導による学力の向上を目指して

ー学習意欲の向上と思考を深める授業づくりを通してー

○研究の見通し

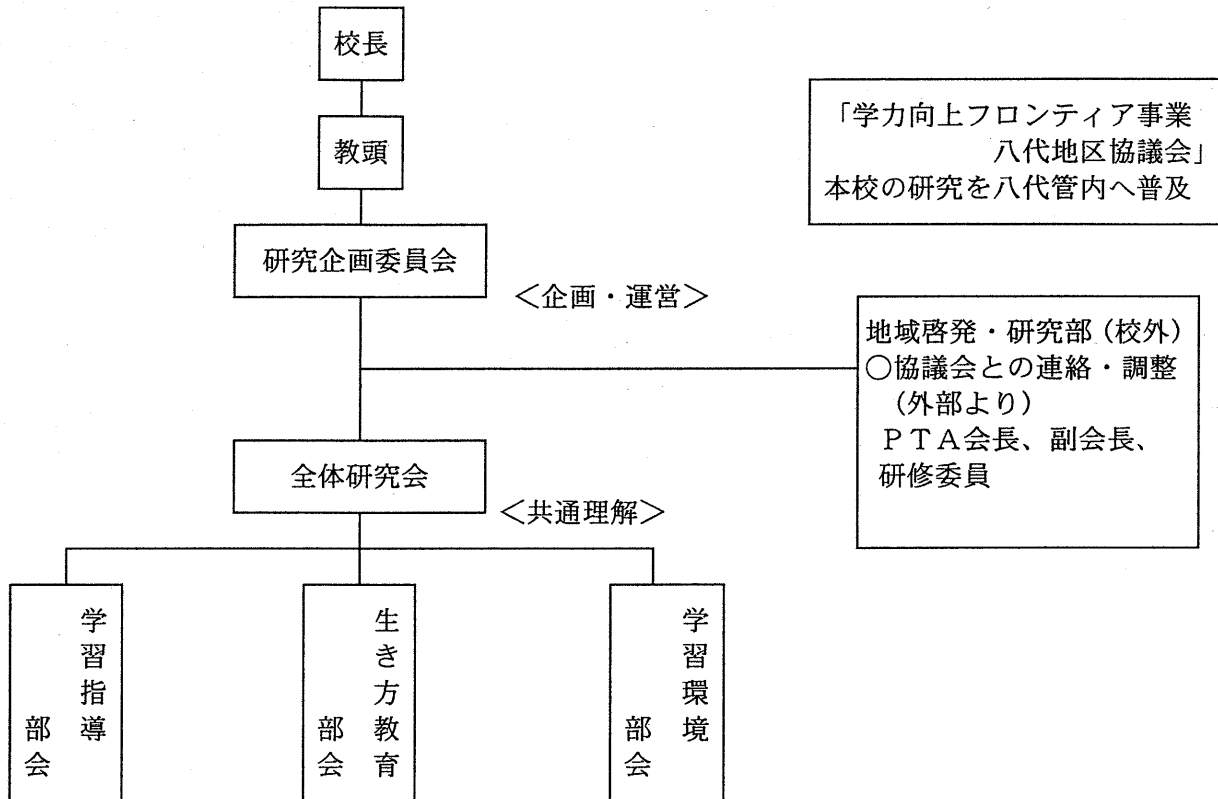
学力を高めるためには、家庭を含めた、学習環境の改善を図る。子どもの学習意欲を喚起させる手だてを行う。授業において基礎的基本的事項を明確化した展開を工夫し、児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を行うと、学力を保障することができるであろう。

○研究内容・方法

- ①思考を深める授業づくり
- ②基礎学力の向上（基礎的基本的内容の定着）

- ③少人数指導のカリキュラムと指導体制の研究
- ④生き方指導と学習環境の整備を中心とした学習意欲の向上

(3) 研究推進体制



Ⅲ. 平成15年度の成果および今後の課題

1. 研究の成果

① 教師の変容

- ア 個の実態に応じた指導形態や指導体制の工夫（TTや少人数指導等）および教材等の工夫改善が図られてきている。
- イ めりはりのある授業づくりを行うために、基礎基本の確実な定着をはかるための徹底指導や主体的な学習態度を育てる能動型学習を授業者が意識して取り組むようになり、授業改善の方向性に共通理解が図られるようになってきた。
- ウ 「八千把っ子の発表のしかた・考え方」を意識した授業づくりが行われるようになり、アウトラインを示して書いたり発表する活動や、思考を深めたり明確にする場が設定されるようになりつつある。
- エ めあてカードに適切な評価が行われ、児童の次の目標への意欲が高まっている。
- オ 夢わくわくタイムの感想をクラス内で交流させることに取り組み、希望や目標を持って学習に取り組む児童が増えてきている。
- カ 学習の約束を日々授業の中で指導することで、子どもたちにも基本的な学習態度が身に付

き始め、学習訓練の大切さが共通理解され指導が行われている。

キ 学級懇談会や学級通信で取り上げ、保護者向けプリントが用意されたことで、保護者の意識は変わりつつある。

## ② 児童の変容

ア 個に応じた指導に取り組んだことで、学習内容の基礎・基本を定着させるとともに、学習したことに対する成就感、達成感を味わう児童が増えてきている。

イ 学習の約束が各学年の実態に応じて指導され、基本的な学習態度が身に付きつつある。

ウ 休み時間に次の授業の準備をしたり、家庭での学習を継続して努力する児童が増えてきている。

エ 生き方教育の取り組みのそれぞれに成果が見られた。

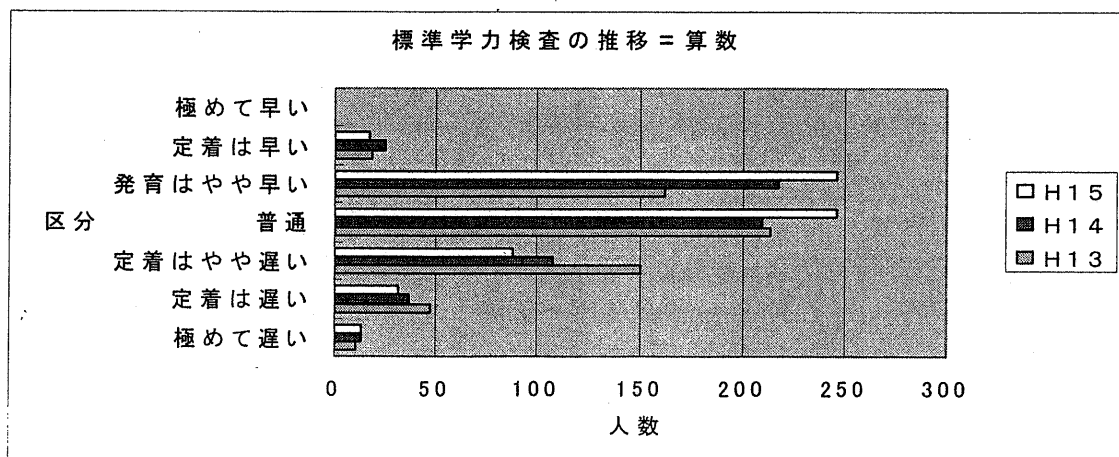
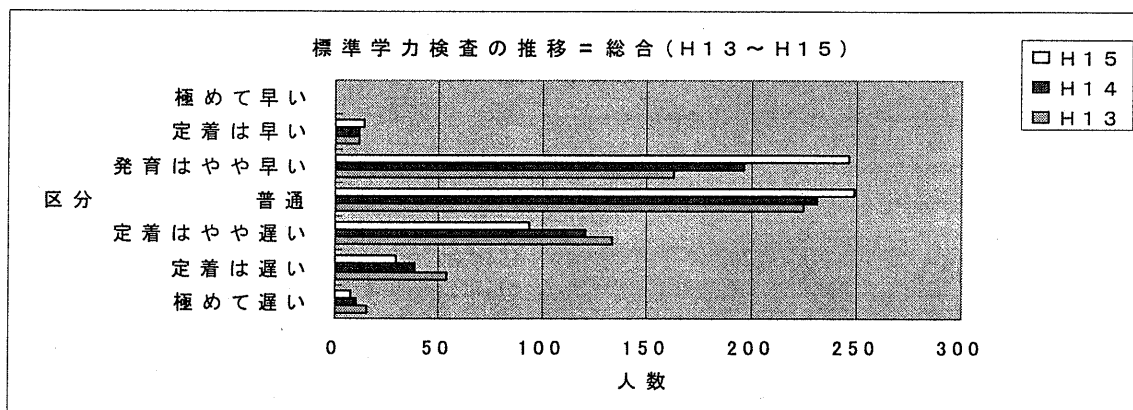
(ア) はじめは、学級で一つの目標を持つことから始めて、今では、それぞれが自分のめあてをもてるようになった。

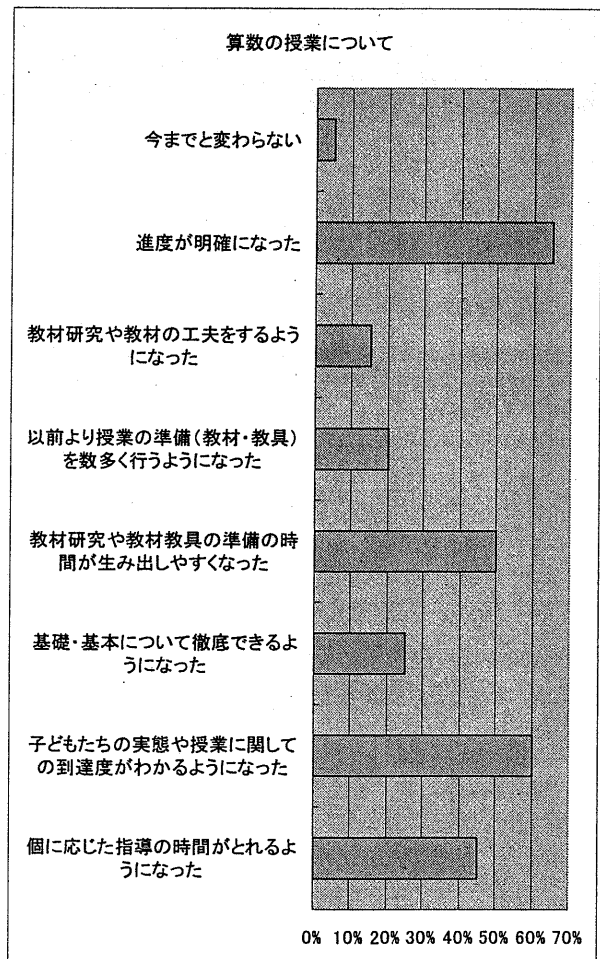
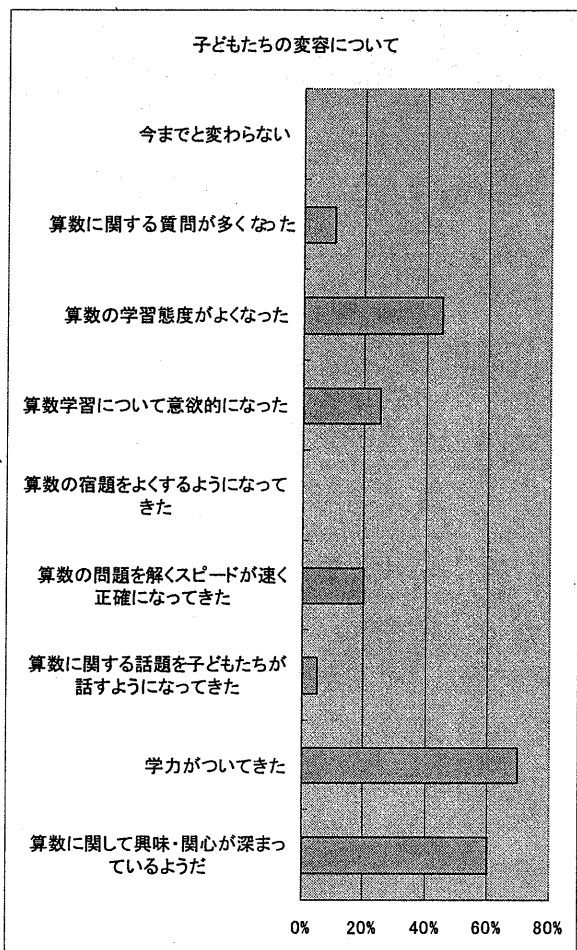
(イ) めあてカードにめあてを書くことを喜んでいた。

(ウ) いろいろな人の話を聞くことで、人はそれぞれに夢を持ち、それに向かって努力し、困難を乗り越えて夢を叶えてきたのだということに共感を覚えることができた。

(エ) 視覚に訴えるものがあるときは、話をよく聞くことができた。

オ 生活点検の取り組みにより、自分の生活の実態がよくわかり、向上のために努力する児童が増えてきている。





## 2. 今後の課題

### ① 児童の変容に向けた課題

- ア 既習事項を基に解決したり、身につけた学び方を活用する力を伸ばしていく必要がある。
- イ 自分の考えたことを的確に表現する力、自ら学び自ら考える学習態度を育成する必要がある。

### ② 教師の課題

- ア 「八千把っ子の発表のしかた・考え方」の段階的指導の系統を研究していく必要がある。
- イ 低学年時より学力不振傾向にある児童の課題を明らかにし、解決するための方策が必要とされている。
- ウ 児童の実態に応じた補充的な学習・発展的な学習に関する教材の開発を進めていく必要がある。
- エ めりはりのある授業が行われるために、単元の計画および1単位時間の構成の中に徹底指導において必要な内容を整理し、効果的な指導のあり方について研究する必要がある。
- オ 単元計画の中でより精度の高い評価基準を設定し、効果的に活用していくための研究の必要がある。また、児童の自己評価能力を高める手だても必要とされている。

カ 生き方教育の取り組みに次のような課題があげられる。

07 学年の発達段階に応じた努力する期間の設定や振り返る時間の確保が必要である。

01 道徳（勤勉・努力）で、めあてをもって生活や学習に取り組むことの大切さを学習したり、学級活動で、「夢や希望を持って生きる」という新しい内容の学習に合わせ、随時授業でとりあげて、めあてのたてかたや内容の見直しを行う。

0ウ どんな人のどんな講演なのか、話の柱は何かを事前に知らせておくと更に効果が上がるであろう。

0エ 夢わくわくタイム目的達成のためには、講師との綿密な打ち合わせが必要である。

キ 生活点検の取り組みに次のような課題があげられる。

07 改善点が見られない項目について、教師側からのコメントなど指導が必要とされている。

01 おおむね成果が上がっている項目については、見直しの必要がある。

0ウ 家庭の状況により、取り組みに差が見られる。保護者の啓発を更に進めていく。

#### IV. 学力把握のための学校の取り組み

- ① 標準学力検査（NRT） 5月実施
- ② ゆうチャレンジ 12月実施
- ③ かけ算九九到達度調査 12月実施

#### V. フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ① 公開授業研究会の実施（平成16年2月3日、130名参加）
- ② 管内研究主任会で研究発表（平成15年5月13日）
- ③ 市内研究主任会で公開授業（平成15年5月20日）
- ④ 市教委主催「いきいき学習」やつしろセミナーで研究発表（平成15年8月1日）

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上

【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 一部教科担任制  その他

【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無